**八尾市社会福祉審議会　高齢者福祉専門分科会の開催経過（令和３年度）**

**１．第１回高齢者福祉専門分科会**

　新型コロナウイルス感染拡大防止を鑑み書面にて以下のとおり開催した。

**（１）書面審議期間**

令和４年３月３日（木）から３月１１日（金）

**（２）案件**

第７期及び第８期高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画の進捗状況について

**（３）開催結果**

八尾市社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会の開催について【資料１】

八尾市介護保険事業計画の実施状況【資料２】

八尾市高齢者保健福祉計画の実施状況【資料３】

八尾市地域包括支援センターの実施状況【資料４】

地域密着サービスの指定等について【資料５】

第８期計画施設整備の公募について【資料６】

を送付し、各委員より下記のとおりご意見をいただいた。

〇委員からの意見について

　　会長からは、分科会の資料について特段問題ない旨の意見をいただいており、他の委員の主な意見は下記のとおり。

<意見>

・高齢者あんしんセンターの延べ相談件数について、前２年よりもR3年の計画値が低

いのはなぜでしょうか。予防的に相談対応するのであれば、相談件数が多いのは評価

できるのではないでしょうか。一人当たりの相談は何件と想定されていますか。

　もし、早期段階でのアプローチを考えるなら、実人数（増えると予想）×回数（減る

と予想）と考えた方がよいかと思います。

・高齢クラブ加入率について、令和１年から令和２年にかけて減少にも関わらず、令和

３年はかなり高く加入率設定している。実施状況を見ると達成はかなり困難であると

思われますが、どんな方策で令和３年の加入を促されたのか知りたいと思いました。

・令和３年度の「多職種連携研修会」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点よ

り昨年度同様、動画配信による実施となってしまいました。在宅医療・介護の連携を

強化するためには、地域の医療・介護関係者がお互いの専門性を理解し、「顔の見える

関係」となり、ネットワークを構築していかなければなりません。来年度こそ大勢の

多職種の方々に一堂に会していただき、グループワークを通じて相互理解を深めても

らいたいと思います。

・今後、市民後見人の養成は大事な事と考える。登録のための養成内容及び資格獲得の

ための方法を具体的に知りたい。

・災害時要配慮者支援事業は非常に大切であると認識している。実際の体制構築はどの

辺までできているのか。

・家族介護教室の延べ参加者数について、第７期高齢者保健福祉計画から第８期計画で

2,022人から1,200人に減っていますが、なぜ減っているか。説明していただけた

らいいかと思う。減った人数の状況に対してどういう対応をされているのか状況報告

があればいいですね。参加されている利用者の反応、ご意見を聞かせていただいたら

現場の実情が解っていいかと思います。

・居宅サービス利用者数が増加したのはコロナの関係で外に出なくなったからでしょうか。自宅ばかりなので、認知は進むし、足腰が弱って介護度が上がった人が多いのではないでしょうか。

・要支援・要介護にならないための介護予防支援事業は、大切なことと理解しています。

しかし、年齢や様々な状況によって、要支援・要介護の状態になったときに、それが

マイナスのことではなく、介護サービスや福祉用具を気軽に活用できる雰囲気作りも

必要だと思います。わだかまりなく支援や介護サービスにつながることは、当事者や

家族の方々にとって大きな安心につながります。

・「認知症サポーター養成講座」について、　コロナ禍の今は難しいかもわかりませんが、子どもたちの体験を進めていただきたいです。すでに学校園で取り組んでおられるとは思いますが、CAPプロジェクトのような形で大人になったとき、普通のこととして認知症のことを知る人が多くなれば社会が変わっていくのではと思います。

・小規模地域密着型の介護施設の整備については、高齢社会での感染症や自然災害の対応対策を考えると地域にとって必要かつ重要な取組になってくると思いますので必要かつ積極的な整備について異論はございません。ただ、整備にあたりマンパワー不足への支援や整備要件の緩和等が必要になってくるように思えます。せっかく整備されても十分機能が発揮されなければ勿体ないし、従来の規制などに縛られ整備計画そのものが頓挫するようなことは避けたいと思います。できる限りの柔軟的で未来的な発想での官民一体となった施設整備が行われれば良いなと思っています。